

# おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

今月の読み物

◇2～3面:北東アジア平和と友好の旅に参加して  
◇4～5面:国際平和署名提出とインドネシア文化に触れて その2◇6面:韓国緑色病院創立20周年記念祝賀会に参加して◇7～8面:「ミャンマーのたたかいいどう支援を続けるか」

〒540-0004 大阪府中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F

2024年2月1日 No. 612



写真左:1955年バンドン会議当時のパレード 右上:グランド サポイ・ホームマンホテル  
右下:2005年50周年記念パレード 下:現在のアジア・アフリカ通り

## バンドン会議の地へ

西野 敏恵

インドネシア訪問5日目、ジャカルタから高速道路で3時間、バンドンに着いた。アジア・アフリカ通りと名前がついている道路の両側には、歴史を語る建物が並ぶ。どこかヨーロッパ風の崩れかかったような2階建てなどに、オランダに長い間統治されていたその名残を感じる。

バンドンで泊まったホテル、グランド・サポイ・ホームマンは、ネルーヤスカルノが泊まったホテルであった。外観は当時と同じという。1955年、このホテルにアジアアフリカの国々の首脳が泊り、バンドン会議を成功させたのだ。

そして2005年、会議50周年を記念してホテルの前を各国代表が行進した。ホテルのロビーにはバンドン会議当時と50周年記念の行進と

の両方の写真が展示してあった。

自分たちの意思で平和を築いていくのだという各国の指導者たちの熱い決意がそこにあり、今もその思いが伝わってくる。私とその延長線上にたっていることに、何とも言えない感動が湧き上がってきて胸が熱くなった。

世界で戦争の絶えない今こそ、徹底した話し合いで戦争を回避するASEANに学べと叫びたい。



「北東アジア平和と友好の旅」に参加して

堀内 保孝



12月10日〜14日まで『近代日本のはじまりを考える旅』に行ってきた。かつて植民地下に置かれていた台湾の歴史の舞台を訪れ、日本との関係を考えることで、「台湾有事」を考察することの一助になればと参加された方も多いようでした。長野県、和歌山、愛知からも参加されて総勢27名の旅でした。企画は日本コリア協会・大阪、日本中国友好協会大阪府連合会、大阪私学退職者の会の合同で何度かの学習会やプレ企画を経て、実施されたものです。JUI観光旅行友の会の協力というか、縁の下の方持ちとして実施に当たっては学習会、プレ企画の段階から担当の近藤環さんには一方ならぬご尽力を頂きました。実際には多くの事を学び、一度では消化できないものではないので十分には伝えることはできませんが、少しでも伝える



事ができれば幸いです。

日本には台湾から50万人が訪れ、日本からは10万人が行くというのが最近の実状です。もっと多くの日本人が、アジアの国々を訪れ、アジアの国々からもやってくる。常に欧米目線ではなく、アジアの事をアジアの目線で考えるという時代にならなければと思います。

【10日(台北)】10時30分に集合、予定通り関西空港を12時45分発のチャイナエアラインにて台北へ。14時55分に桃園空港着。バスで二八公園へ。公園の中で228事件の記

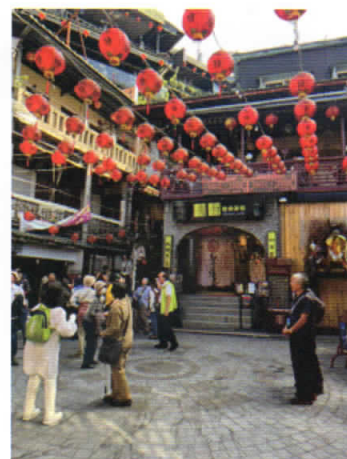
念碑を観たり記念館の外観見学後、ホテルへ。夕食の時、途中から合流の同室者を紹介される。初めお互いに不安であったがすぐに打ち解ける。この人は妻君が上海の人で本人は何度も台湾に来ており一通り中国語が話せるということで以後の僕のこの旅行に大いに影響を与えてくれる。偶然とはいえ自分に中国語を少しでも学ぼうという気にさせてくれた人です。早速、夜、同室者と二人で市内にでる。日曜日なのであまり店は空いて無く、彼の行こうと思っていた店は閉まっております、その近辺で声を掛けられた店に適当に入る。



【11日(台北)】朝8時30分バスで出発し 総統府



(入場見学)へ。自分が入る事なく一人で町中を散歩、総督府の周りは若い軍人が多く警備、軍用車も裏手にはあり、徴兵制のある国なのだと実感させられる。実はパスポートをスーツケースの中にしまい込み、バスのトランクを開けてもらって取り出すというのが面倒というのと、町中を歩くことも台湾の人と話す事も無くただ学習の場所だけを次々に移動するだけの旅行にははしたくないという個人的な思いというか我儘です。昨夜夜市を歩き、英語、日本語OKという看板があつて、2000円で飲み放題という店に飛び込み、英語を習いに行ついているという娘や、日本語学校に通う為にここで働いている日本に行つてみたいという若い子と、話したり店に



入ってくる若い男の子に、「台湾有事」の事を聞いてみるのが面白かった。

「香港のようになって欲しいくない。」米国と日本が後ろにいるからいい」という意見を言う子もいて、その子は徴兵で最近まで軍にいたという。「米国や日本が台湾を守ってくれるとは思えない」等様々な意見を拾う。

台湾当局は昨年末、18歳以上の男子に義務付けている兵役の期間を4ヶ月から1年に延長した。それをどう思うかというのも聞いてみたが、この旅行とはなじまないもので割愛。ただもっと台湾の事を知りたいという気持ちが強くなる。

1月にはもう一度高雄へ、5月には中国本土の見える金門島へ、いつてみよ



うと思っています。  
 昼ごはんは九份で、ここはまさに観光地。「千と千尋の神隠し」の舞台になったとか、海を一望できる風光明媚なところ、ただ高齢者の多い我が団体には、石段の多い狭い道、大変にキツイものがあり、みなさんやっとの思いで昼食の場に到着。かつては金鉱で栄えた街だと感じさせるレトロな雰囲気を感じさせている。

午後、かつての金鉱の街金瓜石へ。国際終戦和平園区（日本軍戦争捕虜キャンプ跡）などを見学。ここもまた山なので大いに歩く。バスで、埔里へ移動、山の中の街なので夜は出発か

【12日（台中）】霧社へ。霧社事件関連視察（現地）



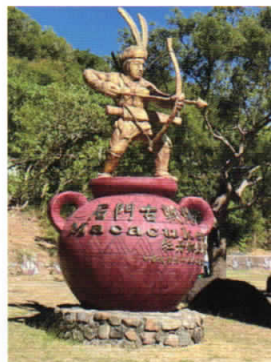
方の解説で。

霧社事件の舞台となった霧社公学校、モナー・ルダオの像、墓、抗日記念碑。その後台中駅から高鉄の新幹線で高雄へ。新幹線の中は車内自販機もあり日本の新幹線と変わらず。パイナップルの木やバナナ、マンゴーの木が植えられた車窓の景色を楽しむ。

高雄の夜は同室者と六号夜市と台湾オイルマッサージへ。

【13日】西郷軍の上陸地、討藩本営地跡、琉球藩民五十四名の墓、石門古戦場跡、牡丹社事件記念公園へ。

桜が咲き、モンシロチョウが飛びブーゲンビリア



の花が咲き誇る、そんな陽気でした。当日は31度。夕食後、前夜と同じく、六号夜市を歩き、台湾マッサージへ。

【14日】烏山頭 八田與一記念館・烏山頭ダム。同じく温かい気候美しいダム。

昼食後、高雄国際空港へ。19時05分に関西空港に到着。



**牡丹社事件**

1871年に起きた琉球民遭難殺害事件を理由に2年後1874年、清国領台湾に出兵。日本最初の海外派兵、清国から賠償金50万両（約67万円）出させた事件。最初の海外侵略。

この事件は、次の霧社事件とは多岐に異なり言葉が通じないが故に、原住民が遭難してたどり着いた宮古島の人達54人を侵略者と間違えて殺害してしまったものである。不幸な事件といえる。時をへて牡丹社の人と宮古島の人は和解している。ただ当事者が琉球民（当時は日本でなく琉球国）、クスクス社、牡丹社、客家人、明治政府、清帝国と7つもあり国籍も文化も歴史も全て異なる。それ故の複雑さが伴う。

この事件を利用し時の日本は琉球を日本国に組み入れ、台湾を侵略、さらに中国への侵略を開始することになる。

『牡丹社事件 マブイの行方 日本と台湾、それぞれの和解』（平野久美子著 2019年）。この本を読んでいなければよく分からなかったと思う。

**霧社事件**

1930年10月27日。日本植民地支配下の台湾で開発の手が内陸高地に及び生活を圧迫された原住民が反発して約300人が蜂起し日本人134人を殺害した事件。これに対し日本軍は（台湾総督府）は苛烈な鎮圧・報復戦を行う。

「抗日6部落の犠牲者は、40日余りの戦闘で644人が死亡、1931年に、日本側にそのかされた同じセイダツカのタウツア群に襲撃されて、2箇所の収容所に収容されていた生き残り514人中216人が死亡、この内、賊首された者101名、さらに残った299人のうち282人が川中島に強制移住、内23人が抗日の疑いで逮捕監禁され全員死亡。最終的に1年後に人口1236人であったセイダツカの生存者は二割にも満たない210人となる。霧社群は絶滅の危機に瀕した。

（『抗日事件をめぐる人々』日本機関紙出版センターの下村作次郎さんの解説より）

# 「多様性の中の統一」を実感した旅 国際平和署名提出と インドネシア文化に触れて その2

新年号では、ASEAN事務局での署名渡しと意見交換。そして私が感動したインドネシア文化の包容力などを中心に報告させてもらいました。  
今回は観光を中心にした旅行記です。

## 世界遺産プランバナン寺院遺跡群

(11月27日)

このプランバナン寺院は9世紀に建てられたヒンズー教の寺院群で、翌日に訪れたポロブドゥール寺院遺跡とともにジャワ建築の最高作の1つとされ、1991年にユネスコの世界遺産に登録されています。

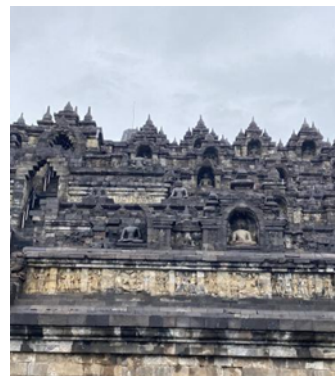
昨年訪れたアンコールワットのように重厚な石造り建築物ですが、石質が違うのか、プランバナンの方が彫刻の彫りは深く劣化の度合いも少ないように感じました。2006年の地震でこれら石造遺跡群が大きな被害を受けたとのこと。まだ十分な復旧はされておらず、再建された主な塔以外は崩れたままの状態でした。本来の形で残っていれば、さぞ壮大な眺めだろうなと思いました。

アンコールワットは、約200年後にこのプランバナンを元にして作られたとガイドさんの説明もありました。どおりで両方の遺跡は似ているはず。遺跡を汗をかきながら歩いて見学した後は、6人乗りの電気自動車に分乗して場内を巡りました。これが、結構スピーディに走るので、遺跡群の景色の移り変わりが早く、動画を見るような楽しい遺跡めぐりとなりました。



ポロブドゥール寺院遺跡上部にて

ときにかなりのスコールとなり、瞬く間にあたり一面は水浸しの状態になってしまいました。本日の目玉ともいうべき遺跡見学であるのに悪天候のために中止かと心配したのですが、雨も小降りになって、足元が大丈夫な人は遺跡上部まで登ることができるとになり、ほっとしました。ポロブドゥール遺跡は8〜9世紀に建造されたといわれ、プランバナンと同じように世界遺産です。



9層に積み上げられ、最上部には巨大なストゥーパがあります。下から見ると遺跡全体は山のように巨大な感じがしました。小降りになった雨の中を、最上部まで上り詰めて見た光景は、緑豊かな大自然の中にある遺跡の壮大さが感じられて圧巻でした。

## ソノブド博物館

(11月28日午前)

ソノブド博物館は、ジャワの文化・民俗芸能の博物館です。ワヤンクリという影絵芝居人形の精緻さに感心し、バティックといわれるインドネシアのろうけつ染めのため絵付けを見たりしてインドネシアの伝統文化に触れることができました。

午後からは、かつて王国だった時代の宮殿クラトンを見学しました。入り口には、学生らしき青色のジャージ服の集団が見学に来ていました。女子はみなヒジャブをしており、イスラム教徒が9割の国であることを実感しました。顔立ちもアジアというより中東系に近いのかなと感じました。子どもたちの目が明るく、生き生きしていたのが印象的でした。  
王宮は、ジャワの伝統建築様式の建物で、調度品や太鼓や銅鑼などが並べられており、広間で金属打楽器のガムラン演奏もしていました。



## ポロブドゥール寺院遺跡群

(11月28日午後)

午後は、ポロブドゥール寺院遺跡群見学です。遺跡すぐ近くのレストランでインドネシア料理の昼食を食べている

## 東南協力のための非同盟センター(NAM)

(11月29日)

ASEAN事務局での署名渡しと意見交換の後、バスで移動して東南協力のための非同盟センターの事務所に行きました。双方が自己紹介をするなどしてからNAMの活動の概要などを説明してもらい、その後質問や感想などを出し合ってお互いの理解を深めました。

この「東南協力」は、1955年の第1回アジア・アフリカ会議(バンドン会議)の原則に基づいて設置されました。1995年からNAM CSTCとして活動し、農業などの分野での人材育成やワークショップなどに取り組んでいるとのこと。しかし、資金を出しているのはインドネシアだけで予算的には赤字であり、6人のスタッフだけの活動は大変であるとの悩める状態も垣間見えました。

先進国が発展途上国を支援することにはどうしても見返りが伴うでしょうが、途上国どうしが協力し合って発展をめざしていく精神は重要だと感じました。



NAM活動の説明を受ける

## バンドン会議の地へ

(11月30日)



歴史的なバンドン会議が行われたバンドンは、ジャカルタからバスで3時間ほど内陸へ行ったところの都市です。バンドンは歴史を感じさせる町です。ホテルに着いてから、二つのグループに分かれ、歩いてバンドン駅まで散策しました。仕事があるのかどうかかわからない多くの若者が歩道に座りこんだり、止めたバイクにまたがったりしてスマホをいじっています。

道の両側はあらゆる種類の店が並び、人々の生活感が漂い活気にあふれています。プランボンと臭いまくる魚や食料品が所狭しと吊り下げられている店や、溢れんばかりの果物を並べている店があったりして、実に刺激的で楽しい散策でした。

昼食後は、バンドン会議博物館へ行き、植民地主義を排し、非同盟・平和の発展を誓い合ったアジア・アフリカ会議が行われた資料や写真を見て、この地で歴史的な会議が行われたことに思いをはせました。会議の意義を大きく扱った当時の日本の新聞も展示してありました。



## 独立宣言起草博物館

(12月1日)

当初は独立記念塔の博物館と東南アジア最大のモスクに行く予定だったのですが当日になって、大規模なデモ集会が催されるので、交通規制などによって見学が中止となりました。そして、急遽行くことになったのが独立宣言起草博物館です。

この博物館は前田精(ただし)という海軍少将の公邸であったところですが、終戦翌日の1945年8月16日、彼はスカルノとハッタ(インドネシア独立運動のリーダー的存在、のちに副大統領となる)らを自らの海軍武官府公邸に招き入れ、インドネシア独立宣言の打ち合わせをした(独立宣言の起草の場を提供した)とのこと。

1976年前田精はインドネシアの独立に貢献したとしてインドネシア政府から「建国栄誉賞」を授与されています。侵略していた帝国海軍の軍人がインドネシア独立に大きな貢献をしたことは、私はそれまで知りませんでした。少し驚きでした。

その後訪れたモスクは、そんなに大きなところではなく、モスク特有の塔もない地味な感じの建物でした。中東では一般のモスクの中に(異教徒は)なかなか入れないそうですが、このモスクの担当者、旅行者である私たちを案内して、いろいろ解説もしてくれました。インドネシアならではの寛容さと多様性を宗教面でも感じました。



最後に インドネシアから帰国して2日後、私たちが訪れたジョグジャカルタすぐ近くの火山が大噴火したとのニュースが流れました。もし、滞在中であつたら旅行に大きな影響があつたかもしれませぬ。ほっと胸をなでおろしました。

# 韓国緑色病院創立20周年

## 記念祝賀会に参加して

2023年9月22日(金) ～ 24日(日)

茨木診療所所長 安達克郎(大阪AALA代表委員)

### ■毎年秋の韓国ツアー

2008年3月に全日本民医連平和学校の韓国ツアーで私は初めて韓国を訪問し緑色病院を見学しました。これをきっかけにこの時通訳してくれたファンチャヘさん案内で大阪民医連有志の韓国ツアーが毎年秋に行われるようになりました。このツアーは、韓国との交流に関心を持つ大阪民医連の職員が韓国を訪問し、医療や平和、民主主義について考え、さまざまな分野の方たちと草の根の交流をするという企画です。しかし、コロナ禍で2019年11月を最後に訪問が途絶えていました。

### ■緑色病院から招待を受けて

韓国緑色病院から「創立20周年記念行事に招待するのでぜひ出席を」という連絡がきました。西淀病院は2017年に緑色病院と姉妹病院提携をしているので、西淀



日本国憲法前文の額縁を贈呈とともに平和をめざしましょう

### ■韓国での交流

1日目は日本からの参加者(大阪西淀病院以外に、姉妹病院提携している京都民連中央病院と福岡民医連千鳥橋病院、そして全日本民医連)と緑色病院関係者との夕食交流会でした。医師・看護師・事務と職種ごと

病院の福島院長、小玉看護師長、山岡事務長、長瀬淀協副理事長、そして私、大阪から5人が参加することになりました。しかし、福島院長は前日に発熱して参加できませんでした。

にテーブルを囲い、ざっくばらんな交流ができました。

2日目は午前中が20周年記念シンポジウムで、イム・サンヒョク緑色病院院長、増田剛全日本民医連会長の講演のあと、4人のシンポジストの発表があり、緑色病院の果してきた歴史と役割がよくわかりました。西淀病院からコロナ禍が始まった2020年初頭にマスクやガウンなどの支援をいただき大いに助かったことへの感謝状、そしてともに平和を願う思いを込めて日本国憲法前文の額縁を送りました。

午後が記念祝賀会で、20年間の歴史の映像紹介、各関係者のメッセージがあり、多くの人に支えられてここのまでの歴史が作られてきたことを理解できました。今後の発展の希望も述べられました。そして功労のあった人に感謝牌が贈られ私もその一人でした。夜が夕食交流会。無事に祝賀会を終えることができ、スタッフの方はリラックスして少々酔っ払い気味。夕食会後半は歌合戦模様とな

り楽しい時間を過ごすことができました。

3日目はフリー。東大門、チョンテイル銅像を巡った後は、中部市場 明洞市場 広蔵市場でお土産の買い物をたくさん買いました。

今後とも緑色病院を含め、韓国の医療・介護・社会福祉について、平和について、民主主義について、民間交流を続けていきたいと思っています。



感謝牌の贈呈を受ける

### 緑色病院とは

緑色病院は、労災職業病闘争と民主化闘争を経た労働者と医師が中心になり、2003年にソウル市郊外に設立された病院です。現在は一般患者を診療する総合病院と位置付けられていますが、依然として職業病患者のための診療と研究・治療も行っている病院です。地域の人びとや労働者の医療を通じて、人権を守



記念祝賀会の最後に全員で記念撮影 横膜には「健康主治医緑色病院お祝ひします」など

るとりくみをすすめていきます。また、労働活動家が断食闘争を終えて訪ねて行く病院が緑色病院です。私たちが訪問した時、断食闘争を終えた共に民主党の元大統領候補イ・シエミン氏が入院したことが報じられていました。



## 第36回AALAカフェ報告

「ミャンマーのたたかい—どう支援を続けるか  
最近の状況と急がれる避難民支援」

原田 正美

(大阪大学外国語学部ビルマ語非常勤講師)

「ミャンマー史上最悪の軍による弾圧と暴政」と題して2022年9月11日に報告して以来一年以上が経過した。現在(2021年2月のクーデターからは2年10カ月近く経過)も同様に過酷な状況は続いている。大きな違いとして、2023年10月27日に少数民族武装組織3兄弟連盟であるミャンマー民族民主同盟(MNDAA)とタアン民族解放軍(TNLA)、アラカン軍(AA)が、「1027作戦」として一斉蜂起、その結果クーデター後はじめて、軍の劣勢が取りざたされている点、またその直後に民主派政府NUG(国民統一政府、2021年4月16日設立)の外務大臣ジンマーアウン氏が初来日したことがある。(写真:1027作戦で軍の拠点から押収した武器[Irrawaddy 10月31日])

前回からこれまでの変化として、

1) NLD(国民民主連盟)を含む40政党の政党登録が抹消された。党員の殺害、拘束、事務所の破壊など数々の蛮行に直面してきたNLDは1月26日に一方的に制定された新政党登録法規定の登録申請をせず、「非合法の軍評議会の手下である選挙管理委員会が解党、承認する権利は一切ない」とし「NLDは国民が存続する限り党も存続する」と3月29日に声明を出した。

(写真:破壊されたNLD事務所の一つ[ERAS EYE 4月9日])。また78歳のアウンサンスーチー氏は6年恩赦の後27年の刑が確定した(2023/8/1)

2) 非常事態宣言の延長が計4回に。憲法の規定では有効期限は1年で、6か月を2回しか延長できない。にも拘わらず、2023年の2月と8月の2回、情勢の悪化を理由に延期を追加、現在は2024年に国勢調査、2025年に選挙、それも一方的に比例代表制に制度変更した形で行おうとしている。

3) 国際的に承認を得ていない軍政は、原子炉開発を含めロシアと数々協定を結び、中国も自国の利益保

持の為に軍とも関係を維持、日本からは隠密外交的な個別の訪問がある。

4) 軍対「NUG、非暴力CDM(市民的不服従)+PDF(国民防衛隊)による武装闘争」に、EAO民族武装組織がどのように連携するかが鍵という大枠の図式は変わらない。クーデター直後から始まったCDMは2023年4月の時点でも30万人余り、10月の時点で教員13万人が、又NUGによれば12月現在でも8割の大学生がCDMを続けているという。また、NUGは日本を含む世界8カ国に代表事務所を開設、6月には人権省副大臣にロヒンギヤ出自のアウンチョーモー氏を任命、7月に東チモールがNUGを政府として承認、国連も12月にNUG側の代表チョーモートウン氏を代表として追認。さらに、2021年の9月7日に自衛のための武装蜂起に入ったPDFは、今年2周年のスピーチにおいて、軍の総勢力の12%(約3万人)の兵士を撃破し、脱走兵数千人が投獄、兵士3200人余り、警察官1万人計13000人以上がCDMに加わったとし、軍の兵力は衰退し元軍人、兵士の妻、Non-CDMなど動員せざるを得ず、士気も低下。軍陣地の占領は28カ所から107カ所へと3倍に増加、PDF師団は293でさらに60増える予定、330ある郡区の内250以上でPDFを編成、5州で22の民族防衛隊が結成等、成果を上げているとした。

そうした抗戦に対し陸上戦で応戦できない軍は、4月11日、174人(現地情報)が死亡したとされるザガイン管区バジジ村の空爆、10月9日のカチン州の避難民キャンプでの無誘導爆弾による29名の死亡など、数多くの空爆、村の焼き討ちなどによる無差別殺戮を行っている。10月末までに焼失した民家の数は全土で76923棟に上り(Data for Myanmar)、11月24日までに4200人の民間人が殺害され、25450人が逮捕、19721人が拘束中で、死刑判決は欠席裁判も含め163人に上る。10月時点でミャンマー全土で200万人以上が避難し、全人口の3分の2にあたる1760万人以上が何らかの人道支援を必要としている(OCHA)。

5) そのような中、中国と国境を接するミャンマー北東部シャン州で、「軍事政権の打倒と親軍派によるネット犯罪組織を一掃するため」として「1027作戦」が起こった。ミャンマー国軍への大規模攻撃が開始され、11月にミンスエ大統領代行自らが「ミャンマーは国家崩壊の危機に直面している」と述べ、300カ所(8ページに続く)

■常任理事会日程(大阪AALA事務所)  
 第7回常任理事会 2月14日(水) 14時  
 第8回常任理事会 2月13日(水) 14時(予定)

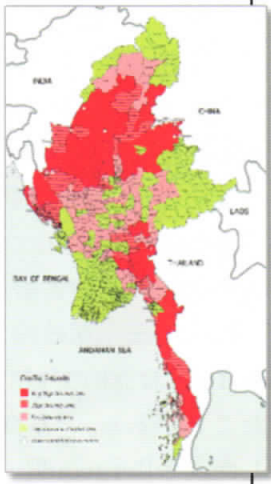
**2月「英語で世界を眺む会」**  
 日時/ 2月27日(火) 2:00~  
 場所/AALA事務所 **Let's 脳トレ!**  
 テキスト① 'I'm really serious this time!' : have Hayao Miyazaki and Studio Ghibli made their final masterpiece? ②International Scholars, Journalists, Peace Advocates, and Artists, Demand End to Construction of the New Marine Base in Okinawa.  
 ①1月に読み切れなかった宮崎駿監督アニメ映画について②世界の文化人による辺野古新基地建設反対の声明です。奮ってご参加ください。ご連絡下さればテキストお送りします。  
 Pichan5@hotmail.com (安井)

(7ページ「ミャンマーのたたかい」 続き)  
 以上の国軍拠点を占拠した(12月6日朝日)。国軍が追い込まれている要因として、脱走兵の増加、兵力が15万人までに減少の可能性、国軍支配の打倒を最大の目標に掲げた組織間の調整が奏功という見方があり、他方個々の勢力が別の目標で動いている、中国の当初から介入なども報じられている。

(地図: 赤、オレンジ、ピンクの順に激しさを表す戦闘地域、緑はほぼ戦闘がない地域、[Irrawaddy12月5日])。

2023年11月下旬に来日したNUG ジンマーアウン外相は、少数民族と信頼関係醸成の成果を強調、日本は軍政経由でなくNUG 経由で人道支援をと訴えた。

(同時期に来日した元米国陸軍中佐のミーミーウィンバッド教授もD(軍からの離脱),I(国際的な圧力),P(国民の支持、協力)があれば革命は勝利すると「春の革命」を鼓舞して来た。氏は「年単位を待つ必要はない」と軍の崩壊を予想。ただ、日本での論調は、軍が手放すまで追いつめられる可能性は低く、民主派と少数民族の連携には限界がある等の見方も根強い。(写真: NUG 外相ジンマーアウン氏記者会見[日経11月24日])



〒540-0033  
**大阪中央法律事務所**  
 大阪市中央区石町一、一、七  
 永田ビル四階  
 ☎ 06-6942-7860(代表)  
 FAX 06-6942-7865

〒556-0011  
**きづがわ共同法律事務所**  
 大阪市浪速区難波中一、一〇、四  
 南海S.R難波ビル五階  
 ☎ 06-6633-7620  
 FAX 06-6633-0944  
 ホームページあります

年祝賀広告記載内容の訂正とお詫び  
 きづがわ共同法律事務所と大阪中央法律事務所の郵便番号が違っていました。正しくは左の通りです。誠に申し訳ありませんでした。

文化欄  
 川柳  
 年男妻と歩んだダイヤ婚  
 万博中止こそ能登地震への支援  
 十九人過去最高の家族会  
 大阪市旭区 近藤 正  
 イスラエル交渉役は兵士たち  
 ウクライナ小麦畑は地雷原  
 火星人地球を見ればいつも燃え  
 四条畷市 西川ひろし



6) この作戦の継続により、国内避難民が50万人増加、250万人の避難民支援が急がれる。日本政府対ASEAN5項目の履行を促すのみならず時期を逃さず施策を打ち出すことを申し入れることに加え、避難民のための支援が急務だ。今回はタイ国境に逃れた避難民に対するトイレ支援にご協力をお願いしたい。また急増している在日ミャンマー人への応援もよろしくお願ひします。

大阪AALA へのお誘い  
 会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) ※入会金 500円  
 \*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。  
 \*会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします



発行  
 大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)  
 Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee  
 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F  
 TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361  
 E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.coocan.jp/

機関紙・宣伝委員会